



## 冬本番に向けて体調を整えよう！



ハッピーバレンタイン♪

まだまだ寒い季節が続いています。

寒い時期は、ワンちゃんや猫ちゃんもお腹を壊しやすくなります。

免疫力を上げて元気に春を迎えましょう！



## 犬の寒さ対策。愛犬は寒さが苦手？対策



### 寒い！と感じているサインは？

ワンちゃんが寒がっている時の行動は、

- ・小さく丸くなる
- ・小刻みに震える
- ・布団や毛布にもぐる
- ・散歩に行きたがらないなどが挙げられます。

犬が寒がっているときには、室温は低くないか、廊下や窓際の冷えやすい場所にケージを置いていないか、直接床の上に寝ていないかなどを確認してあげましょう。



## 正しい寒さ対策

- 冷暖房のエアコン
- ワンちゃん用のコタツ
- ペット用のヒーター
- ワンちゃんの小屋を日当たりの良い場所に移動させる
- ウェアを着せる
- ワンちゃんの体温を維持するための栄養価の高い食事を与える



## 間違った寒さ対策

### ① カイロをワンちゃんに貼る

人が服の上から使用するには快適なカイロですが、ワンちゃんに使用するのは低温やけどの原因にもなります。ただしカイロをタオルなどにくるみ、湯たんぽのように使用することはできます。屋外から帰宅して、凍えている時などは飼い主様の見ている範囲内で直接貼らない使い方をして良いでしょう。

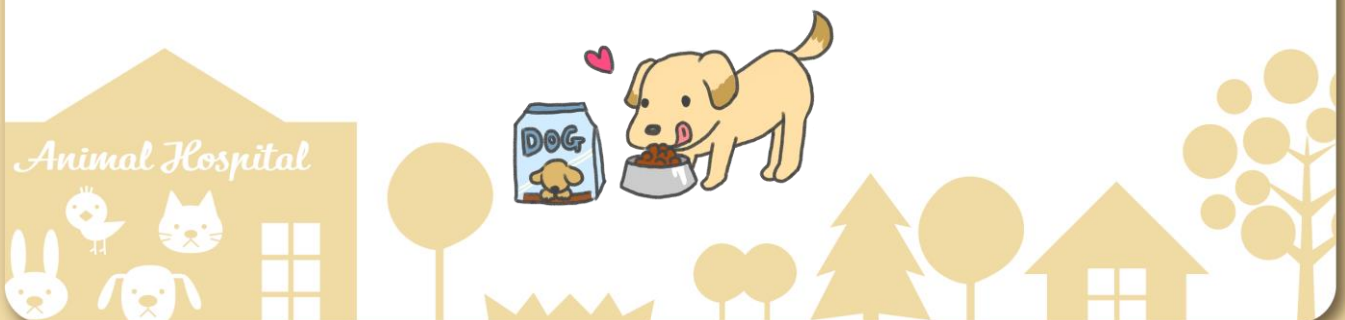


### ② 服を着せっぱなしにする

寒いからと言って服を着せっぱなしにするのはNGです。通気性が悪くなる、服の素材によっては毛玉ができやすい、服と皮膚が擦れるなどの要因で、皮膚トラブルの原因になります。室内のワンちゃんは、散歩で屋外に出る時だけなど、服を着る時間は決めましょう。

### ③ フードを増やす

寒い時期はエネルギーの消費が早いからフードを増やすという飼い主様もいらっしゃいます。室外のワンちゃんの場合は、体重測定を行い、実際に体重が減少していたら増やすなどの工夫は良いですが、室内のワンちゃんは冬だからと言ってフードを増やす必要はありません。「冬太り」になってしまいます。



# 学べるワンニャン語クイズ



問題：闘犬で有名な土佐闘犬とは、どこの都道府県で行われていたでしょう？

① 福岡県

② 群馬県

③ 高知県

答えは下にあります。



## 闘犬＝ブラッド・スポーツ（血の戦い）

闘犬とは、その名の通り「闘う犬」のことを指します。目的は人間の娯楽や賭けごとであり、「闘犬＝ブラッド・スポーツ（血の戦い）」という考え方もあります。基本的に、日本での闘犬は「厳格なルールのもと行われるワンちゃんの格闘技」です。時間内に声を出さず、戦う意思を持ち続けた方が勝ちとなり、場合によっては数秒で勝敗が決まることもあります。相手を威嚇して吠えたり、戦意なく逃げたりした場合は、その場で負けが確定します。

さかのぼること14世紀、日本では土佐闘犬が盛んに行われていました。始まりは当時の土佐藩であり、主な目的は「藩士の士気を高める」為です。かの有名な徳川幕府との戦の前にも、藩士たちは闘犬を観て士気を高めていたようです。

実は、現在ほとんどの国で、動物愛護の観点から闘犬は禁止されています。ですが、日本では現在も闘犬文化が色濃く残っている地域があり、法律で禁止されてはいません。条例で、禁止されている地域もありますが、国として禁止しているわけではないです。



答え：③ 土佐犬の起源は14世紀の鎌倉時代から室町時代あたりに現在の高知県において闘犬として用いられたことだと考えられています。

# ワンニャントピック



A small green pennant with a white border and the letter 'W' in white.



## 救助犬「ジェニファー」が被災地でお手柄

2024年1月1日に震度7を観測した能登半島地震では、現在も住民の生き埋め情報が多数寄せられており、安否が懸念される。防衛省によると、石川県輪島市内の家屋内にいた高齢の女性を救助犬が発見、救出につなげたのです。

ワンちゃんは3歳メスの「ベルジアン・シェパード・ドッグ・マリノア」で、名前はジェニファーちゃんです。自衛隊はジェニファーを含め10匹以上を投入し、行方不明者の捜索・救助活動などに当たっています。ジェニファーの所属する空自では、昭和36年に「歩哨犬」という名称で運用がスタートし、平成25年からは「警備犬」に呼称を変えました。元来の任務は基地内の巡回警備や不審者警戒、嗅覚を生かした爆発物や不審物の探知などだが、東日本大震災以降は、災害現場へも救助犬として派遣されるようになりました。

救助犬による一人でも多くの方の救助を祈るばかりです。



## 猫カフェ美術館「ニャージアム」

イランの首都テヘラン中心部にある小さな2階建ての建物に、30匹ほどの猫ちゃんが暮らす猫カフェ美術館「ニャージアム」があります。

館長のホセイン・ハムレフダリさんが「ニャージアム」を開いたのは、2020年であり、入り口に立つと、大きな雄の猫ちゃんが歩いてきて、出迎えてくれるそうです。また、シェヘラザード、ファロク、シャプール、シリンなどと名付けられた人気猫たちがギャラリーや館内のカフェテラスを自由に歩きまわっているそうです。他にも、壁にはイランをはじめ韓国、ギニア、ウクライナなど世界各国の猫ちゃんが描かれた絵や写真、戯画、切手などの複製が飾られており、様々な保護猫たちと触れ合い、遊ぶために訪れる人も多いそうです。

イランでは、特にテヘランなどの大都市で野生の猫ちゃんが増え過ぎ、問題になったことがあるので、こうした猫ちゃんと人とが触れ合える場所は、今後重要になっていくでしょう。





## 悲しみの底で猫が教えてくれた大切なこと

瀧森 古都

瀧森  
古都



悲しみの底で  
猫が教えてくれた  
大切なこと

電車の中では読まないで下さい。  
ラスト30ページ、衝撃の結末に号泣しました。  
(34歳・女性)  
「この物語はすごい！」読んだ人の身割が震した〜  
《本当の幸せに気づく4つのストーリー》 55 Creative

出典:

<https://note.com/hirotoshunna/n/n5bd0f139ffb8>

著者は放送作家として「奇跡体験!アンビリバボー」など様々な番組を手掛けられている方であり、コピーライターとしても活動していた瀧森古都さんです。

本書は「猫ちゃんにまつわる感動体験」を通じて、登場人物が成長していく全4話からなる短編小説です。奇妙な猫ちゃんとの出会いを通して、登場人物が「生きるとは?」「家族とは?」「働くとは?」など人生を深く哲学していく4つのストーリーが展開していきます。

実は、この短編小説には仕掛けがございます。

それぞれのストーリーは独立しながらも関連しあい、最終話まで読んでみると一つの大きな物語として完成されます。ラスト30ページは、涙なしには読めないこと間違いございません。思いっきり泣いた後に本当の幸せに気づくことができる、そんな「気づきのある物語」です。

人間関係によるストレス、情報ストレスなどストレス社会と言われている現代の中で、日々、ストレスや心の底の悲しみと一生懸命戦っている大人の方に読んでほしい1冊です。思いっきり泣いて、明日の活力にしてください。

猫を通して動く人の心。始まる人生とは。

あなたもぜひ読んでみませんか?

Animal Hospital

